

22年度

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年4月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2794000147		
法人名	社会福祉法人甲有会		
事業所名	グループホームロココ		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府豊中市宝山町7番8の1号		
自己評価作成日	平成23年4月10日	評価結果市町村受理日	平成24年2月13日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.osaka-kaigohoken-kohyou.jp/
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8号ー102
訪問調査日	平成23年5月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>特別養護老人ホーム(部屋数90室)が併設されている。 また平成23年6月1日には介護老人保健施設が開設。 (部屋数100室、通所リハビリテーション30人、訪問リハビリテーション)</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>静かな住宅街の中の近代的な建物で、周囲には手入れの行き届いた木々や草花が植えられ落ち着いて過ごすことができる環境が整えられている。和風の施設のホーム内は清潔感が感じられ、廊下は雰囲気や壊さない照明の明かりと飾り付けで落ち着いた雰囲気が感じられる。地域で開催される夏祭りのお手伝いに参加したり、だんじりの来訪を受けたりと相互の交流を継続している。敷地内を散歩するだけでなく、地域の商店街に買い物に出かけたり、近隣の公園に散歩に出かけ日常的な交流にも努めている。特別養護老人ホームや6月オープン of 老人保健施設が同敷地内にあり、併設施設と共に地域との交流を深める取り組みを行っている。職員は日々接する中で利用者の尊厳を損なわないように接している。特に入浴や排泄に関して、利用者のプライバシーを損ねる言葉かけをしないように心がけている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>社是・経営理念・基本方針を1枚にまとめ、必ず目にする玄関、職員トイレに掲示している。</p>	<p>甲有会グループの社是・経営理念・基本方針を玄関や職員の目に付くところへの掲示だけでなく、職員の名札の裏に入れ、いつでも見ることができるようにしている。また、新入職員研修では、理事長より直接、理念について説明を行い理解・周知する取り組みも行っている。日常のケアに反映していくために、申し送り時や会議にて話し合い、周知を図っている。</p>	<p>職員への理念の周知徹底を図るために理念を言葉だけで捉えるのではなく、日々のケアの中に活かしていけるように理念に立ち戻る機会を持つことが望ましい。</p>
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>夏祭り等の地域行事に参加したり、見学の受け入れを随時行っている。</p>	<p>地域の方のボランティアの受け入れはグループホーム独自では行えていないが、併設の施設にボランティア来訪時には一緒に参加している。地域で開催される夏祭りのお手伝いに参加したり、だんじりの来訪を受けたりと相互の交流を継続している。敷地内を散歩するだけでなく、地域の商店街に買い物に出かけたり近隣の公園に散歩に出かけ、日常的な交流にも努めている。</p>	
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>運営推進会議を利用し、認知症予防や介護の知識、パワーリハビリ等について話している。</p>		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>年に6回実施し、ご家族や相談員の意見に耳を傾けている。</p>	<p>家族代表者、市の高齢介護課職員、地域包括支援センター職員、自治会長、介護相談員の方に出席してもらい偶数月の第二木曜日に定期的開催している。会議では、近況報告、イベントの予定の報告・意見交換を行っている。昨年の会議では報告のみで終わっていたため、内容を検討し、甲有会グループ全体で取り組んでいるパワーリハビリや研修会などを会議の内容に盛り込み、参加メンバーから意見や質問が出され、推進会議の内容が充実してきている。家族から会議で出された意見で気づきを持つことができ、サービスに反映している。会議録は閲覧できるようホーム内に掲示している。</p>	<p>今後も定期的に会議を開催し、多方面からの意見や提案をホームのサービスの更なる向上につなげていくことを期待する。</p>
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。</p>	<p>豊中市役所や中央地域包括支援センターに運営推進会議の参加を求めている。</p>	<p>運営推進会議には積極的に市職員に参加してもらっており、グループホームの状況を把握してもらっている。月に1回行政へ空き状況を報告する機会があり、情報を共有するようにしている。毎月1回来訪される、介護相談員の方を通して、グループホームや利用者の状況の報告もしてもらっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>入職時の研修に【身体拘束】に関する課題を取り入れている。</p>	<p>契約書や重要事項説明書に身体拘束をしないことを明示する他、リスクマネジメント委員会で身体拘束ゼロ推進マニュアルを作成して身体拘束をしない方針で取り組んでいる。身体拘束廃止・虐待防止に向けて、職員がお互いに声かけを行って注意をしている。新人職員の入職時研修においても身体拘束についての理解を深めている。利用者の安全確保のため玄関は施錠する時があるが、利用者の思いや外出の意向に配慮し、閉塞感を感じさせないように取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束のないケアへの取り組みについて職員間で話し合いを継続し、安全に配慮しながらも施錠についての改善策がないか検討していく事を期待する。</p>

7	<p>○虐待防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所不在での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>入職時の研修に【高齢者虐待】に関する課題を取り入れている。</p>		
8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>資料を閲覧できるようそろえている。</p>		
9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者やご家族と入居契約の場を設け、契約書・重要事項説明書の内容を直接伝えている。</p>		
10	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置し、苦情があれば報告書を掲示している。</p>	<p>利用者の家族宛のお便りは毎月発行している「家族だより」があり、生活の様子や健康状態について報告し、利用者の状況を理解してもらっている。意見箱は設置しているが、現在まで意見や要望が出されていない。家族来訪時には、過ごされている場所にお茶を持っていき、「家族だより」では報告できなかったことや時々の挨拶を交わし、家族から直接意見や要望を聞く機会を持つようにしている。年間行事計画の中で家族が参加してもらえる機会を作り、意見や要望を出しやすくする機会も持っている。家族会としては開催していないが、行事で家族同士が顔を合わせる機会を持つことで家族同士が連絡を取り合う関係になっている。運営推進会議でも家族から意見や要望が出されている。出された意見には、迅速に対応するように努めている。</p>	<p>利用者アンケートを実施し、より多くの家族からの意見の聴取ができる取り組みが望ましい。</p>

11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>ユニットごとに連絡ノートを置き、利用者に関する申し送りとともに意見を記入してもらっている。</p>	<p>毎月ユニットごとに開催されるミーティングの機会に職員から意見が出され話し合いを行っている。職員からの意見は検討して運営面に反映させるようにしている。各ユニットの連絡ノートで意見が出されることもあり、出された意見をミーティングで話し合い反映させるようにしている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>契約更新時や賞与査定時に評価シートを記入している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回ユニットごとにスタッフミーティングを開催している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>協議会の定例会議に参加したり、入居希望者や空き室情報の連絡をとったりしている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に訪問面接を行ったり、本人やご家族に見学に来ていただいたりしている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に訪問面接を行ったり、本人やご家族に見学に来ていただいたりしている。</p>		

17	<p>○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご家族や他施設の担当者から話を聞いたり、入居直後は1時間ごとの記録をつけたりしている。(7日間)</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>、炊事や掃除、洗濯たたみ等の生活動作も手伝っていただき、自立支援を目指している。</p>		
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会や外出を気軽に行っていただいている。月1度のイベントにも参加を呼び掛けている。</p>		
20	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>ご家族以外の方の面会も受け入れている。</p>	<p>家族の面会の機会が多く、家族以外の来訪者も家族同様に交流が継続できるように支援している。知人の方が家族以外と来訪される場合には、家族の了承を得た上で、職員も知人の方の顔を覚え、気持ちよく面会がしてもらえるように配慮している。地元の神社の祭りなど利用者の個別の馴染みの場所に出向くことができるように支援している。</p>	

21	<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>食事やお茶の時間。洗濯物をたたむとかCDに合わせ歌をうたうとか、同じことをする時間をもうけている。</p>		
22	<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後の相談にのり、希望されれば併設特養の入所も申込を受け付けている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	<p>9 ○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入所前面接で聞き取りをしたり、入所直後には細やかに行動を観察し、記録している。</p>	<p>利用開始時に管理者や計画作成担当者がヒヤリングし、本人の思いや希望・身体状況・生活歴などを把握すると共に、アンケート用紙で家族の希望や要望を聴取する他、利用者の入居に至るまでの状況を把握するようにしている。利用者一人ひとりの把握できた思いや希望・要望は、センター方式の一部を利用して記録として残している。事業所独自の面接シートを利用して、利用者・家族から聴取できたことを記録している。入居後も利用者との会話や行動・表情などで思いや意向を確認し、日々関わる中で把握できた事柄は介護記録に記載され、再アセスメント時にセンター方式の一部(私がわかること・私がかからないことシート)を利用して記録し、職員間で共有している。日々の細かな希望や要望は、連絡ノートに記載して職員間で共有し速やかに対応できるようにしている。</p>	
----	---	--	---	--

24	<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>ご家族や他に利用されている施設の担当職員から話を聞いている。</p>		
25	<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>ご家族や他に利用されている施設の担当職員から話を聞いている。</p>		
26	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>10 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>入居前面接で本人、家族の意向をうかがう。以後は現状に合わせたプランを作成し、家族に提示している。</p>	<p>利用開始前から面談を通して、利用者・家族から聴取できた内容を面接シートの記録として残している。面接シートの内容でアセスメントし施設介護計画を作成している。暮らしの状況・心身の状況など各状況で計画の実施状況を確認しモニタリング・再アセスメントを行い、計画の見直しを検討している。ユニット別に利用者一人ひとりのニーズ・支援方法を記載した表でスタッフが計画を意識・認識しながらケアを実践し記録している。計画作成担当者は介護記録から計画の実践状況を把握している。項目別に利用者一人ひとりのニーズ・支援方法が記載されたモニタリング表は、職員が見やすい場所に設置し、計画と実践が円滑に行えるようにしている。介護記録は、計画の実践状況、利用者の表情など細かな内容が記載されている。</p>	

27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケアチェック表や介護記録をつけている。</p>		
28	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>併設施設の機器やキャラバンを活用することで、運動したり大勢で外出したりが可能である。</p>		
29	<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>介護相談員が毎月来られて利用者の様子をご覧になり、意見を聞かせて頂いている。</p>		
30	<p>11 ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>同じ建物内にある診療所から隔週に往診を受けている。</p>	<p>現在利用者のほとんどが、同敷地内にある診療所の医師を主治医としている。緊急時などはいつでも主治医に連絡が取れるようになっている。2週間に1回の往診で医師の来訪があり健康管理を行っている。往診の結果や診療・治療方針については、往診医より毎月サマリーに記載された書類が家族に直接郵送され報告されている。利用者の状況に応じて訪問看護も受けることができる体制を整えている。歯科も必要に応じて往診を受けることができる。同敷地内の診療所以外の受診の希望があれば家族の協力を得ながら受診できるように支援している。処方薬は薬局より配達を受け管理してもらっている。年1回健康診断を受け健康管理が行なわれている。</p>	

31	<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>併設された特養施設の看護師から、異常時には支援を受ける体制を整えている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時に先方の病院へ情報を提供している。入院中は見舞いに行き、様子を聞いてくる。</p>		
33	<p>12 ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居前面接で大まかな意向をうかがっている。併設された特養への転所を進めることがある。</p>	<p>契約時より重度化・終末期に向けた方針について説明を行い、確認を行っている。重度化・終末期の状態に応じて主治医・家族と話し合いを行い方向性を決定している。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>入職時に研修を行っている。マニュアルを閲覧できるようにしている。</p>		
35	<p>13 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>併設された特養と合同で、消防訓練を実施している。</p>	<p>併設施設と合同で年2回の避難誘導訓練を行っている。訓練は、昼夜想定で行い、全職員で避難・誘導方法についてグループホームで火災が発生した場合や併設施設で発生した場合など様々な想定をして研修・訓練を行っている。法人の栄養課で備蓄もしている。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者は人生の先輩であるという尊敬の眼差しをつねに持ちながら親しみを感じていただく度量をしている。</p>	<p>法人内で定期的に個人情報保護やプライバシーについての研修を実施しており、職員は研修へ参加し理解と知識を深めるように取り組んでいる。利用者より自分のことを言われているとの訴えがあり口頭での申し送りを廃止し、管理日誌に合わせて申し送り用紙に利用者一人ひとりの状態の変化や様子を記載し、勤務する職員一人ひとりが確認を行い、プライバシーへの配慮をしている。日々接する中で利用者の尊厳を損なわないように接している。特に入浴や排泄に関して利用者へのプライバシーを損ねる言葉かけをしないように心がけている。</p>	<p>日々行われているケアの中で交わされている言葉がプライバシーや尊厳を損ねる言葉や態度になっていないか振り替える機会を持つことで、より一層の徹底を図る取り組みが望ましい。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>お茶やおやつの中には希望をうかがったり、外出や入浴等は本人の意向を確認する。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>集団生活という制約の中で、可能な限り本人のペースを最優先している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>ご家族の協力を得て、本人の望みに対応している。</p>		

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>テーブルを拭いたり食器を並べたり盛り付けをして、準備の段階から食事を楽しんでいただいている。</p>	<p>法人の厨房で調理された食事を利用者と共に盛り付け・配膳を行っている。利用者のできること・できないことを職員は把握し、利用者に合わせて食事の一連の流れに参加してもらい役割を持てるように支援している。食事を摂る時にはテレビを消し、音楽を流し、会話を楽しみながら落ち着いて食べることができるようにしている。利用者の希望や、季節に合わせて鍋物や外食を取り入れ食事を楽しむことができるようにしている。おやつにも手作りを取り入れ、利用者と共に楽しむ機会を多く持つよう取り組んでいる。利用者の飲み込みや口腔内の状況に合わせて刻みやミキサー食の提供も行っている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>栄養士による献立を提供している。水分量も一日1,500mlを確保できるよう記録している。(身体的に制限のある人は除く)</p>	/	/
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>起床時と就寝時には職員が、口腔ケアをしていただくようチェックしている。</p>	/	/
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>夜間も含め、排泄パターンを記録から読み取り、適切なタイミングでトイレの声かけをしている。</p>	<p>排泄の自立をしている方が多い。利用者の排泄の状況をチェック表で把握し、利用者の状況に合わせて自立した排泄が行えるように支援している。散歩・家事・掃除・パワーリハビリなど動きを多く取り入れ下肢筋力維持・低下予防を行い、排泄の自立が継続できるように配慮されている。</p>	

44	<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分摂取の確保と、ヨーグルトや食物繊維のおやつ等を提供している。</p>		
45	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>浴槽のまたぎが困難な利用者にはシャワー浴を楽しんでいただいている。</p>	<p>希望によりいつでも入浴できるようにしている。利用者の安全性を考え昼間の入浴を勧めることはあるが、利用者の希望や気分・状況に合わせて入浴が安全にできるように配慮している。入浴の見守りや手伝いを嫌がれる利用者の方もいるが、利用者の状況に合わせて職員が見守りのタイミングや方法を検討し安全に入浴できるよう工夫している。</p>	
46	<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>入居前から使用されている寝具を持ち込んでいただいている。</p>		
47	<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>利用者毎のケアチェック表に服薬されている薬の内容一覧を綴じている。</p>		

48	<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居前面接で本人や家族から聞いたり、日々の会話で知るようにしている。</p>		
49	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>天気が良ければ毎日散歩に出ている。月に一度は、外出のイベントを計画している。</p>	<p>日常生活の中で個別に外出や散歩ができるように支援しているが、散歩や外出を嫌がる利用者も外の空気で気分転換や刺激を得ることができるよう併設施設の屋上を利用している。年間の行事計画で利用者が毎月、生活を楽しめるように外出やイベントを行っている。年2回程度は、遠方への外出で楽しんでもらっている。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族から3,000円をお小遣いとして預かっている。散歩時の店先で購入されることもある。</p>		
51	<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>自ら行うのが困難な方には月に一度、ご家族への近況報告を職員が代わりに書いている。</p>		

52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎日の掃除を行っている。季節ごとの花を切り紙で作り、リビングの壁に貼っている。</p>	<p>和風の施設のホーム内は、清潔感が感じられる。廊下は雰囲気を壊さない照明の明かりと飾り付けで落ち着いた雰囲気が感じられる。共有空間は明るく、手作りの行事予定表や季節毎の装飾品を飾り、落ち着いてゆったりと過ごせる環境作りが見られる。併設施設の屋上庭園を活用する事も可能で、利用者は外気浴を楽しむ等思い思いに過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングには人数分のチェアをテーブルの周りに並べ、壁にはソファを置いている。</p>	/	/
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>クローゼットとエアコン、カーテン以外には本人のなじみのある家具を持ち込んでいただいている。</p>	<p>ゆとりのある居室に、洗面台・クローゼットが備え付けられている。利用者・家族が持ち込まれた馴染みの物品を置き、利用者の想いが感じられる居室となっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレや浴室には手すりを設置している。</p>	/	/

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない